

ロータリーを祝おう 100年の歩み
CELEBRATE ROTARY

IBARAKI ROTARY

Club Weekly Bulletin

RI第2660地区 茨木ロータリークラブ 創立 昭和34年(1959年)12月23日



事務所 大阪府茨木市土中巻一丁目9-20 茨木商工会議所 TEL (072) 622-2255 〒567-0881
例 会 毎水曜日12時30分 ホテル日航茨木大坂 茨木市中懸橋一丁目1-10 TEL (072) 620-2121
会 長/長澤利治 幹 事/久保義哲 会 議 委 員 長/河原崎 啓
会 員/中西、松尾、武田



姉妹クラブ:台北西北区扶輪社
友好クラブ:インドネシア・チネレC

No.10 平成16年 9月22日

本日の卓話
9月22日(水)
「インドネシアについて」
通訳・翻訳業 厨川 豊氏

例会記録

第2207回例会 9月15日(水)晴
ロータリーソング「奉仕の理想」斉唱
ゲスト・スピーカーご紹介
北山夕華様(2005~06年度R財団国際親善奨学生)

会長の時間

長澤利治会長

今日は、ロータリー財団奨学生予定者(2005 06)の北山夕華さんに卓話をお願いします。まず、奨学生の狭き門に無事合格され、おめでとうございます。ロータリー財団奨学生の資格の一つに、ロータリアンの家族は応募出来ません。ですから北山さんは、ほとんどロータリーの事は理解されていないように思います。出発までに時間はあると思いますので、ロータリーに参加して頂きたいと思います。

先般、ロータリー財団セミナーに、野口会員と共に参加しました。財団寄付で、茨木は86クラブ中14番となっています。この寄付は、財団奨学生にも行きますし、WCS活動にも使用することは、ご承知の通りです。当クラブは、会費の中に財団寄付金、米山も含め徴収していますので、各会員1人1人が寄付している感覚はあまり無いと思います。世界の財団寄付額

出席報告

第2207回例会			前々回(第2205回)		
会員数(免除)	出席	欠席	出席率	欠席	補正出席率
30(9)	16	5	76.19%	2	90.48%

は、アメリカに次いで2番となっています。寄付はするが、あまり使用しないではなく、大いに財団資金を有効活用していきたいと考えています。

壮行会

橋本秀雄会員

9月21~23日の日程で、台北西北RC44周年記念式典に9名の方が参加されます。無事帰国されることを祈念して乾杯。(長澤、久保、簡、秋山夫妻、山口、笠原、日野岡、松尾各会員)

幹事報告

久保義哲幹事

1、例会変更(北説1RCの例会変更)

高槻西RC:9/16~10/28の例会場臨時変更
於:たかつき京都ホテル

2、RI及び2660地区連絡事項

- 1) 2003~04年度地区委員会報告書
- 2) 2003~04年度ガバナー月信最終号(全員配布)
- 3) 社会奉仕地区補助金申請承認書の承認通知 \$1,500(162,000円)
- 4) 地区大会信任状証明書提出依頼

3、茨木市、他RCよりの依頼事項

- 1) RI100周年記念大阪鶴見RC20周年記念事業の案内(パンフレット配布)
- 2) 北摂12RC幹事会の案内 10/16(土) 於:かじか壮 ホスト:高槻西
- 4) RAC4クラブ交流親睦会の案内(茨木・大阪西・大阪中央・大阪住吉) 10/3(日) 於:服部緑地 会費:3,000円(参加者に詳細通知)

委員会報告

「VJSE2004」協力依頼 簡 仁一会員
第一回ベトナム・日本学生科学交流ミーティング
大阪2004年11月13-14日 の資金支援にご協力をお願い致します。詳細資料をお配りさせて頂いております。

卓 話

「R財団国際親善奨学生に選ばれて」

大阪大学大学院 人間科学研究科 教育環境学講座
多文化教育学研究分野 博士前期課程
北山夕華 氏

みなさまこんにちは、茨木ロータリークラブより
2005年度国際親善奨学生にご推薦を頂きまして、この
たび合格を致しました北山夕華と申します。

現在は、大阪大学大学院人間科学研究科にあります
多文化教育学研究科におきまして、紛争後の社会にお
ける教育による平和構築について研究しています。ま
た、日本国内での子どもの権利や国際協力への理解を
促す活動にも関わっています。

冷戦終結後、世界で起こった多くの紛争のほとん
どは内戦です。国家間の紛争に比べ、内戦においては紛
争終結後も国内の民族・グループ間に根深い不信感や
憎悪が残るため、紛争終結後も居住区の分断や差別を
招き、紛争再発の潜在的要因となっていると言われて
います。このような状況で平和を築いていくためには、
武力による平和維持だけではなく、紛争再発要因を除
去し、平和の基盤を構築する活動が必要であるとされ、
国連をはじめとして国際機関やいくつかの援助国は、
その重点をこの「平和構築」に置こうとしています。
この平和構築の基礎となるべき、人々への“エンパワ
メント”や“意識改革”をもたらすために教育の果た
す役割は、極めて重要であると言えます。

アフガニスタンの学校でつい最近まで使用されてい
た教科書には、戦争に関連する表現が多く使われてい
ました。例えば、「2本のカラシニコフ銃に2本のカラ
シニコフ銃を足すと何本になるか」や、「あなたが3
人のロシア人を殺し、私が4人殺すとロシア兵の死体
はいくつあるか」といった問題です。このように、教
育は常にその国のイデオロギーを反映し、時に戦争を
肯定するためにも貢献します。しかし、同じ算数の問
題であっても、例えば「一つのケーキを3人のパシュ
トゥン人と2人のタジク人で分けるなら、いくつに切
らないといけないか」という表現ならどうでしょう。
子どもの頃から触れる教育は、個人の価値観の形成に
も大きな影響を与えるものであり、平和の構築にあた
っても非常に重要な役割を担っているのです。

このように、教科書の表現ひとつから始まり、教員
のトレーニング、地域コミュニティや宗教関係者の間
での問題解決ワークショップなど、草の根的な教育活
動も国際機関やNGOによって行われています。私は、
このような紛争後の国における平和構築のための教育
活動について研究を進めたいと考えています。

ところで、この夏はイランのマシャッド市に赴き、
NGOのインターン生としてアフガン難民の多い地区
に一カ月半滞在して働いて来ました。マシャッド市は
イラン第二の都市で、アフガニスタンとの国境まで3
時間半ほどです。私が滞在していたゴルシャール地区
はマシャッド市郊外にある貧困地区で、住民の約半数

が、20数年続いた内戦から逃れてきたアフガン難民
です。難民といとなんだか悲惨な響きがありますが、
若年層のほとんどはイラン生まれ・イラン育ちの難民
2世で、アフガニスタンの土を踏んだことのない者も
たくさんいます。産油国のイランで「電気・ガス・水
道があって当たり前」の生活をし、イラン訛りの言葉
を話すかれらにとっては、まだ見ぬ祖国への帰還は1
世よりもさらに不安と困難を伴う大きな出来事です。
マシャッドでは多くの若い難民2世が祖国への帰還を
控え、帰国後の就職に向けて英語・パソコンのスキル
を身につけるなどしている姿が印象的でした。イラン
においてアフガン難民は社会的にも政治的にも困難な
立場にいることは確かですが、その運命を悲観するで
もなく、むしろ「自分たちが祖国の復興に貢献するの
だ」という意思と希望を持って勉強に励む若いアフガ
ン難民たちに出会えたことは、自分にとっても大きな
刺激となりました。

今まで私にとって、そしておそらく多くの日本人に
とっても紛争や難民は何だか遠い存在でした。ただ、
紛争で傷つく膨大な数の人々の姿をテレビで見ながら、
何もできない自分に無力感を感じていました。しかし
ある日、ひょんなことから、紛争国での武装解除を非
常にシステムティックに実施し実際に成果を上げている
例を知りました。紛争の原因を研究しその具体的な
解決方法を模索し実施する様子を見て、紛争とは全く
どうしようもないものではなく、人間が起こす紛争は
人間が解決方法を考えるものであり、紛争を予防し平
和を築くことは不可能ではないと感じ、今に至ってい
ます。

今回留学というまたとないチャンスを頂くこととな
り、留学先としてはアメリカの大学を希望しています。
それはアメリカのいくつかの大学が国際機関やNGO
と連携し、紛争後の国を含む発展途上国で教育活動
を行っており、そのような現場に近い場所で最先端の研
究に触れたいと思ったからです。そのため、留学中も
可能なかぎり大学と現場を行き来しながら研究を進め
るつもりです。大学を終えた後には、そこで得たもの
を生かして紛争予防や難民支援に関わって行きたいと
考えています。

ニコニコ箱

高島S.A.A

夫人誕生を記念

高島

ホームクラブ皆出席

山口

ダンロップロングランコンペ(7月~9月)に参加し
まして8月度1,545名の参加者の中で優勝致しまし
た 賞品はグアム島招待でした 山口

本日計17,000円

累計773,000円

次回卓話

「写真は真実を写さない」

写真家 畠山 崇氏